**◎本町農業の現状と課題**

**資料１**

　◇**基盤整備部会◇**

**検討項目１　土づくり対策**

**現　状**

芽室町では平成16年4月から堆肥センターを設置して本格稼動させ、堆肥の製造・供給を行い有機物の活用に努めており、年間20千～24千トン供給している。畑作の基本となる土づくりへの意識が高く、町内の家畜ふん尿を中心に野菜残渣等を原料とし循環型農業を実践している。

１５年前に堆肥センターが建設された背景は以下である。

(1)一部の畜産農家で自家消費できない余剰ふん尿を抱えている

(2)残渣処理が適切に行われず、環境負荷が指摘され始めていた

(3)当時、堆肥利用を阻害している要因として、以下が挙げられていた。

①手間がない②散布機械がない③良質な堆肥がない

　　●堆肥センターの老朽化、製造能力が限界に来ており、また散布機が整備されていないことが課題である。

　　●省力および高収益作物へ作付が偏重し、地力対策上重要な位置づけとなるてん菜の面積が減少および土壌病害虫が増加しつつある。

**課　題**

　　(1)課題　　堆肥センターは老朽化し、生産量も限界に達しており、良質で安価な堆肥等有機物の十分な量を確保出来ていない。散布機を有する農家がない。

　　　【理由】

　　　　　堆肥センターも開設から15年が経過し、施設の老朽化は避けられず、計画外の突発的な故障（修繕）対応などにより修繕費は増加し、収支状況は悪化する傾向にある。また、有畜農家が少ないため必要量を確保できない状況にある。

　　　【施策の方向性】

　　　　　・堆肥センター運営に対する恒久的な支援、堆肥センターの生産量増強

　　　　　・家畜ふん尿等処理と併せた良質で安価な町内産有機物の堆肥提供システムの確立

　　　　　・堆肥散布のための作業受委託制度の確立

　　(2)課題　　輪作体系が崩れることで、土壌成分や微生物等に偏りが生じ、土壌病害虫が増加しつつある。収量低下も懸念される。

　　　【理由】

　　　　　畑作４品での輪作体系を基本に売れる作物への転換や新規作物への挑戦等にも積極的に取り組む攻めの農業経営が多い。

　　　　　土づくりの効果は短期間では現われにくく、中長期的な支援が必要である。

　　　【施策の方向性】

　　　　　・労働力確保対策

　　　　　・土づくりに取り組む意欲的な農業者に対する支援の実施

　　　　　・地力向上を目的とした輪作体系の検討

**検討項目２　土地改良事業**

**現　状**

芽室町では土地改良事業として、農地や土地改良施設の整備充実を図るため、国営事業・道営事業・団体営事業により農業生産の基盤となる整備が進められている。

国営・道営事業により整備した土地改良施設は、事業主体からの管理委託や譲与契約により、団体営で整備した施設も含めて町や地域共同の各環境保全組合により維持管理を行っている。

農地の整備は主に道営土地改良事業により、農村地域を巡回する形で、受益者や地域の要望に応じて、区画整理、客土、除れき、暗渠排水、畑地かんがい施設整備などが行われている。

　　●老朽化した土地改良施設（農業用排水路、農業用水施設）の維持管理や施設更新が課題。

　　●道営土地改良事業は、受益者や地域の要望に応じて継続して農村地域を巡回する形で計画的に実施していく必要がある。

**課　題**

　　(1)課題　　　土地改良施設の老朽化

　　　【理由】

　　　　建設してから２０年以上経過している施設が多数存在し老朽化が進んでいることから、農業用排水路や農業用水施設の更新や維持管理に多大な経費を要する。

　　　【施策の方向性】

　　　　・国営事業を活用した農業用水施設機器・施設の更新が必要

　　　　・国営事業や道営事業を活用した農業用排水路の再整備が必要

　　　　・農業用排水路の機能確保、農業用水の安定供給に向けた計画的な修繕等の維持管理が必要

　　　　・町や各環境保全組合による維持管理体制の確立、継続的な維持管理が必要

　　(2)課題　　　道営土地改良事業の継続的な実施

　　　【理由】

　　　　近年の気候の特徴として、春先の降雨不足による干ばつ、局地的な豪雨等の異常気象の頻発化、冬期の降雪量の減少が挙げられる。このような気候変動が起こっても安全で良質な農産物を生産するため、区画整理、客土、除れき、暗渠排水、畑地かんがい施設整備など、農業基盤整備にかかる事業を効果的・効率的に推進し、農業生産基盤整備の充実を図る必要がある。

　　　【施策の方向性】

　　　　・道営土地改良事業の中長期計画の策定

　　　　・畑地かんがい用水の普及促進に向け、畑地かんがい施設整備（リールマシン等）の推進